

新奇ガンマ線源に向けた Baイオンビームの生成

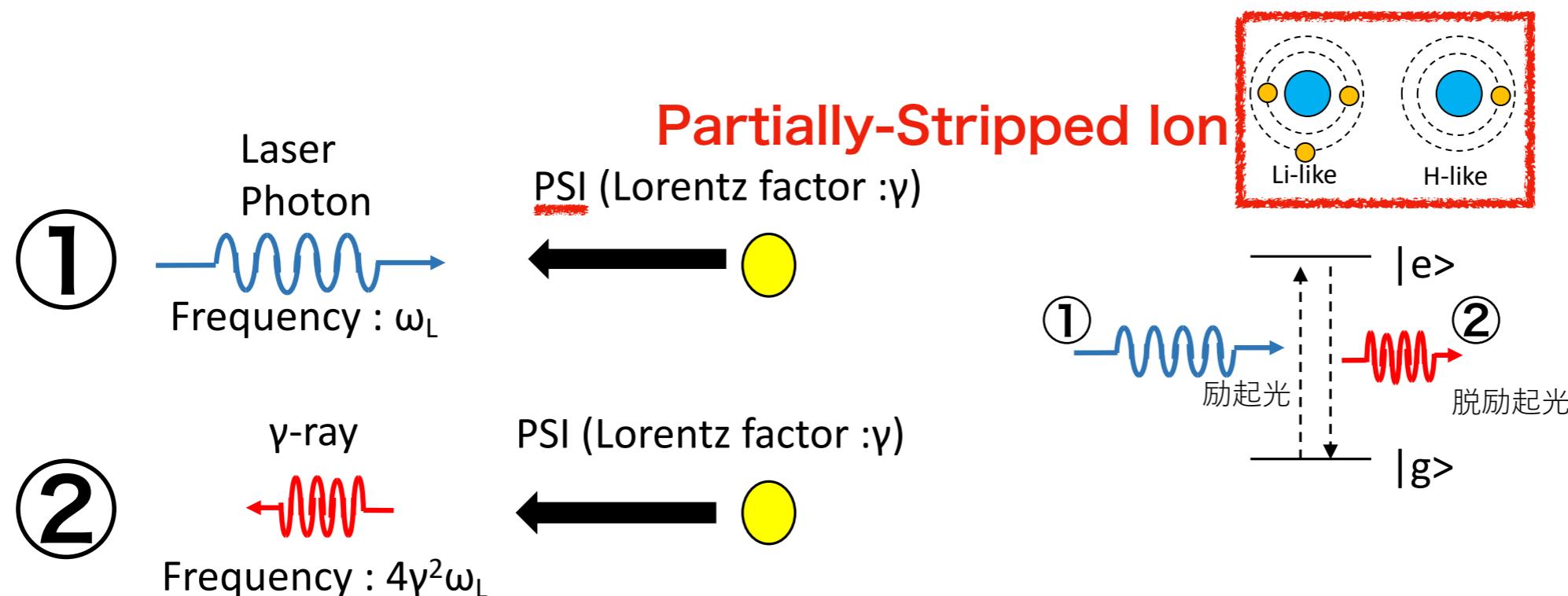
~量子イオンビーム:QIB~

岡山大学大学院 自然科学研究科

岡山大学 異分野基礎科学研究所量子宇宙研究コア²

藤枝 亮 今井 康貴²



高エネルギーイオンの励起過程を用いた γ 線の生成

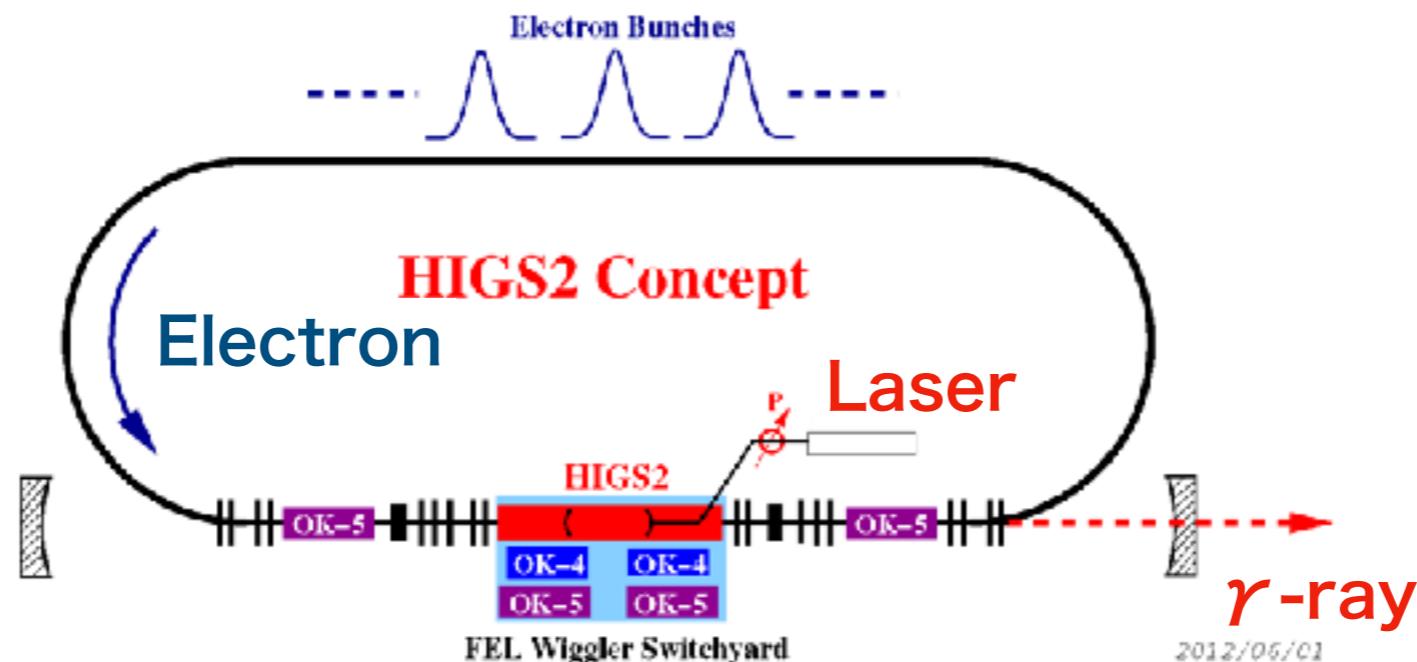
既存のレーザーコンプトン散乱(LCS) γ 線源に比べて
高強度な γ 線になる可能性がある

γ -ray Facilityの現状

レーザーコンプトン散乱(LCS)を用いた γ 線の生成

高エネルギー電子との散乱 γ :Lorentz Factor

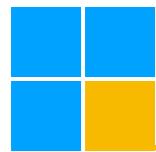
$$\begin{array}{l} \text{・電磁波の高エネルギー化} \quad \times 4\gamma^2 \\ \text{・高強度化} \quad \propto \frac{1}{\gamma} \end{array}$$



- Higs
Photon Energy : 1~100MeV
Photon Flux : 10^9 photons/sec

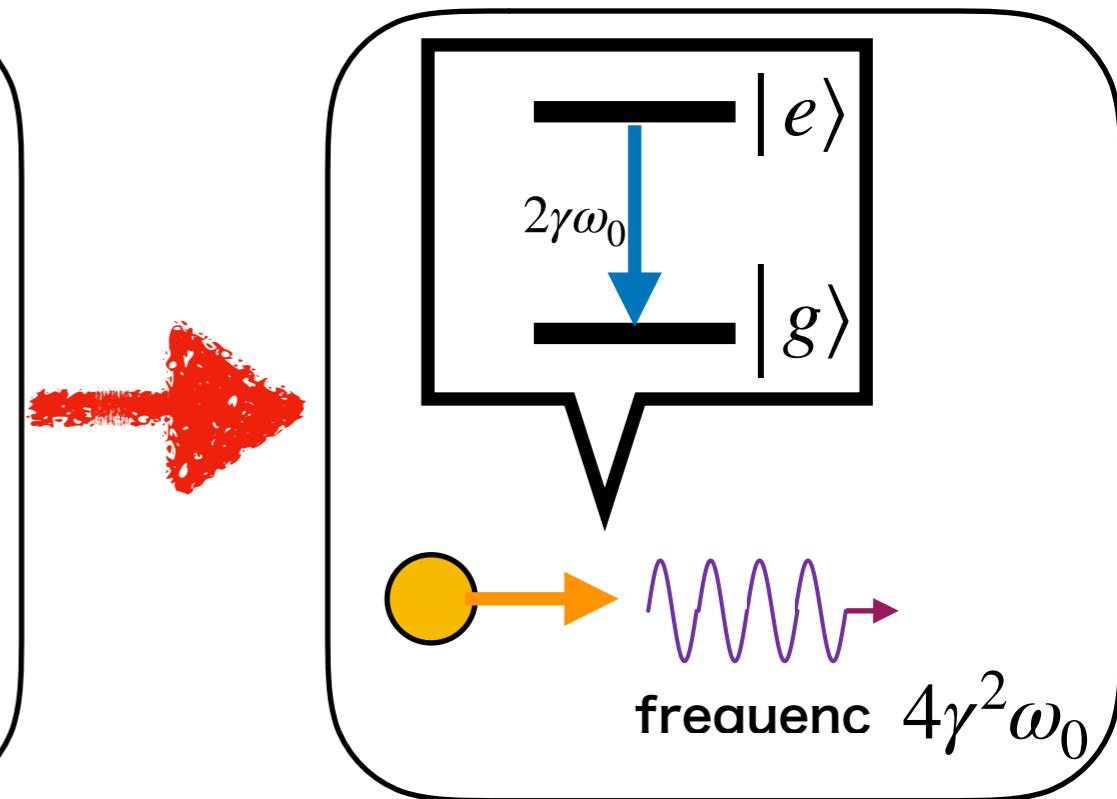
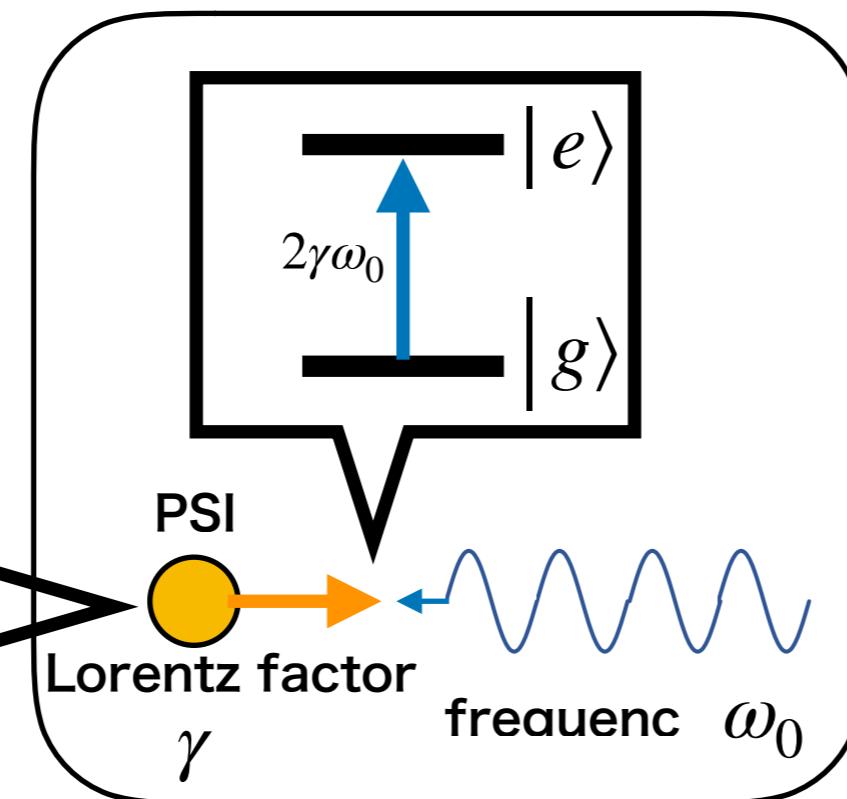
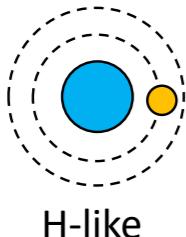
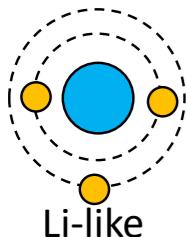
- ELI-NP
Photon Energy : 0.2~20MeV
Photon Flux : 10^{9-10} photons/sec
• 2018現在 コミッショニングフェーズ

DL. Balabanski J. Phys.: Conf. Ser. 966(2018) 012018

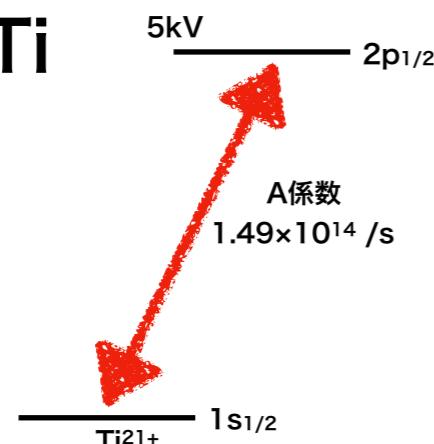


量子イオンビーム(QIB)

Partially-Stripped



例) H-like Ti



Energy : 2.5MeV ($\gamma = 250$)

Flux : 10^{16} photons/s

$$\sigma_{QIB} = \frac{1}{2\pi} \lambda^2$$
$$\lambda \sim 10^{-7} \text{m}$$
$$\sigma_{LCS} = \frac{8\pi}{3} r_e^2$$
$$r_e \sim 10^{-15} \text{m}$$

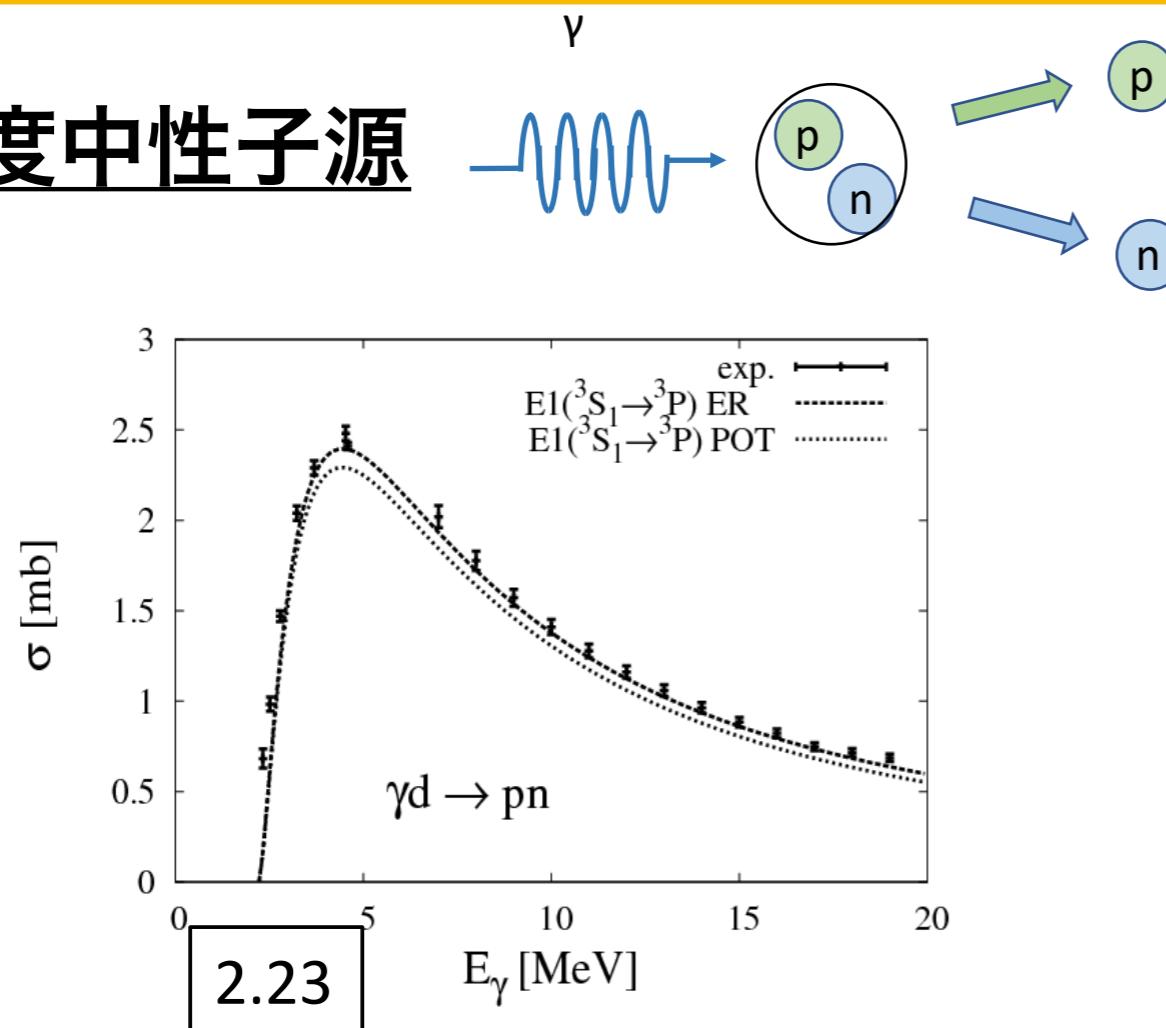
高い反応断面積が高強度化のカギ

Flux : 10^9 photons/s (LCSガンマ線源)

高強度ガンマ線の応用

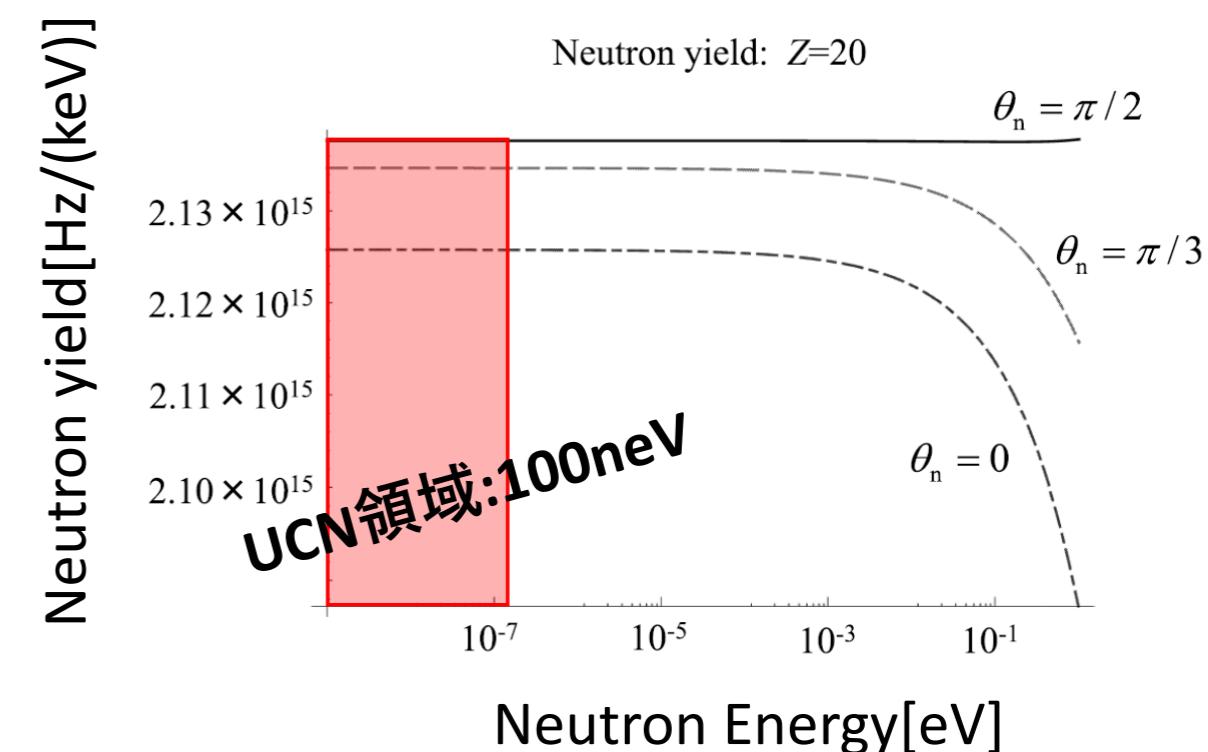
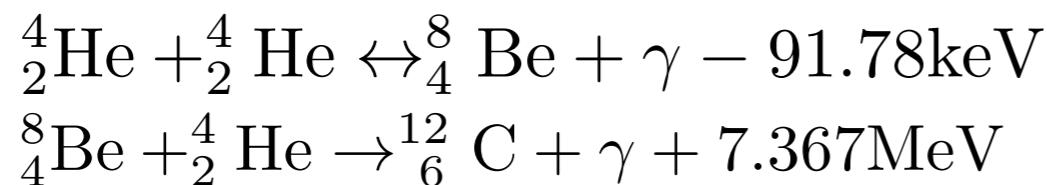
T. Masuda, A. Yoshimi, M. Yoshimura,
Int. J. Mod. Phys. E 26, No.11, 1750076 (2017)

高強度中性子源



宇宙核物理

星生成過程初期段階のTriple-alpha反応の反応断面積の実験的決定
逆反応の観測をすることにより値を決めることができる

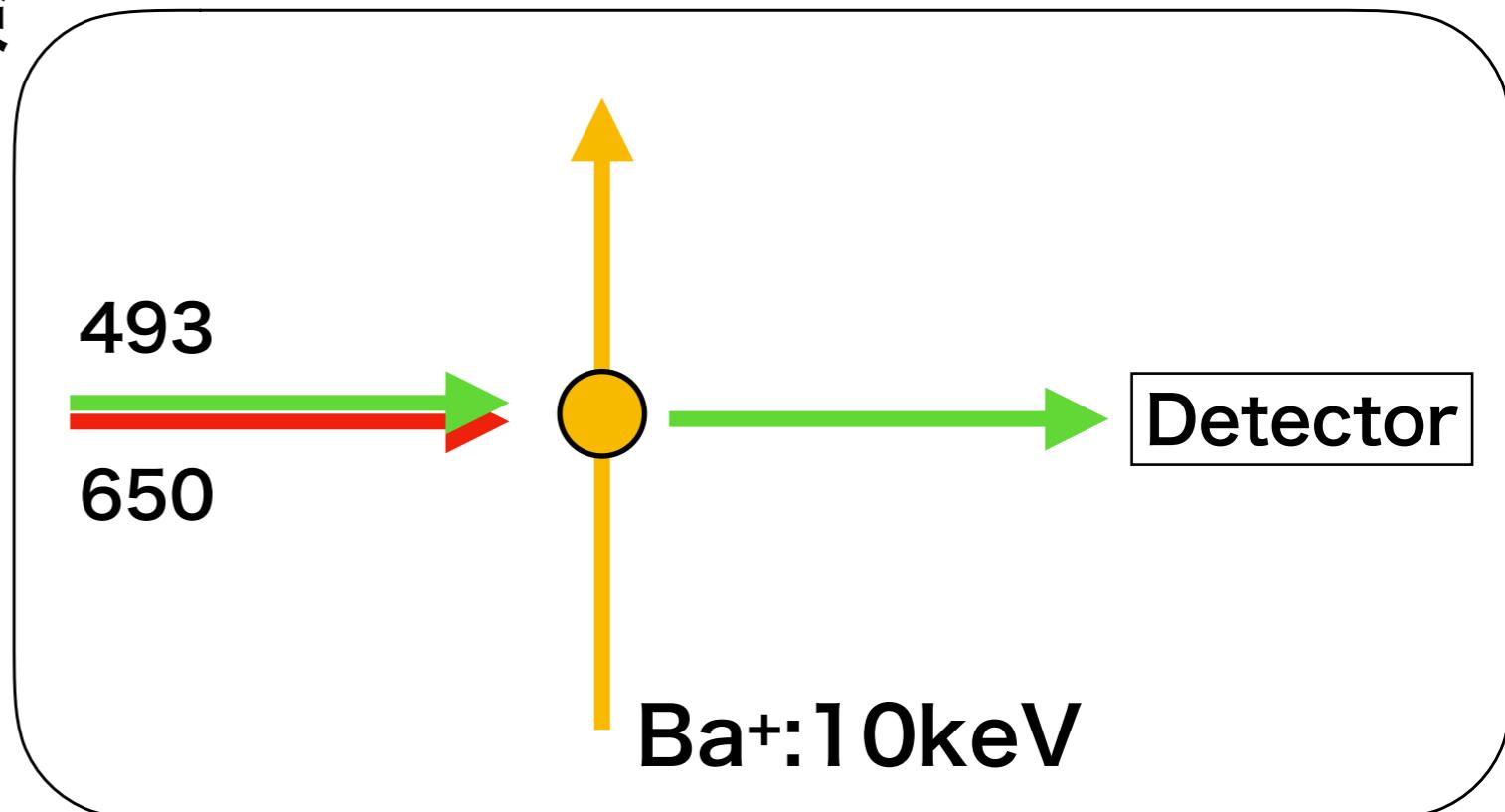
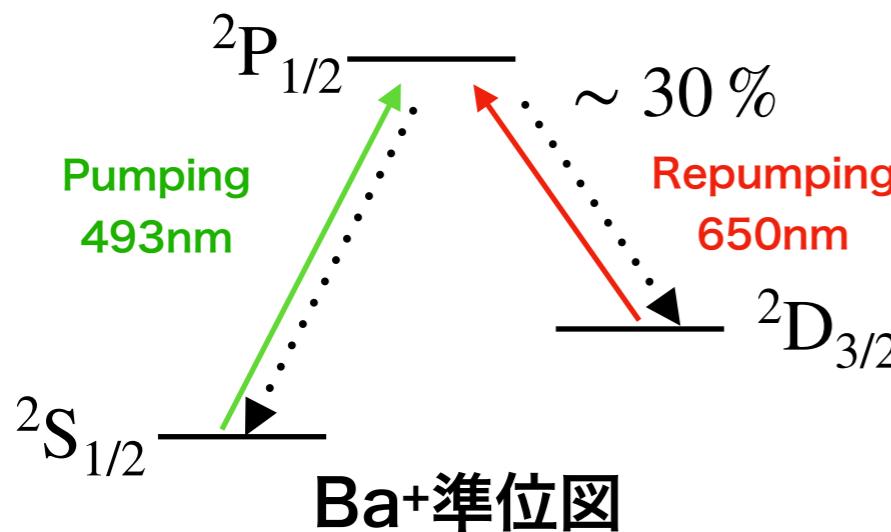


5MeV , 10^{17} photons/secで
 $O(10^5)$ Hz/100neV
nEDMなどへの応用

8MeV , 10^{17} photons/sec

QIBの原理実証実験

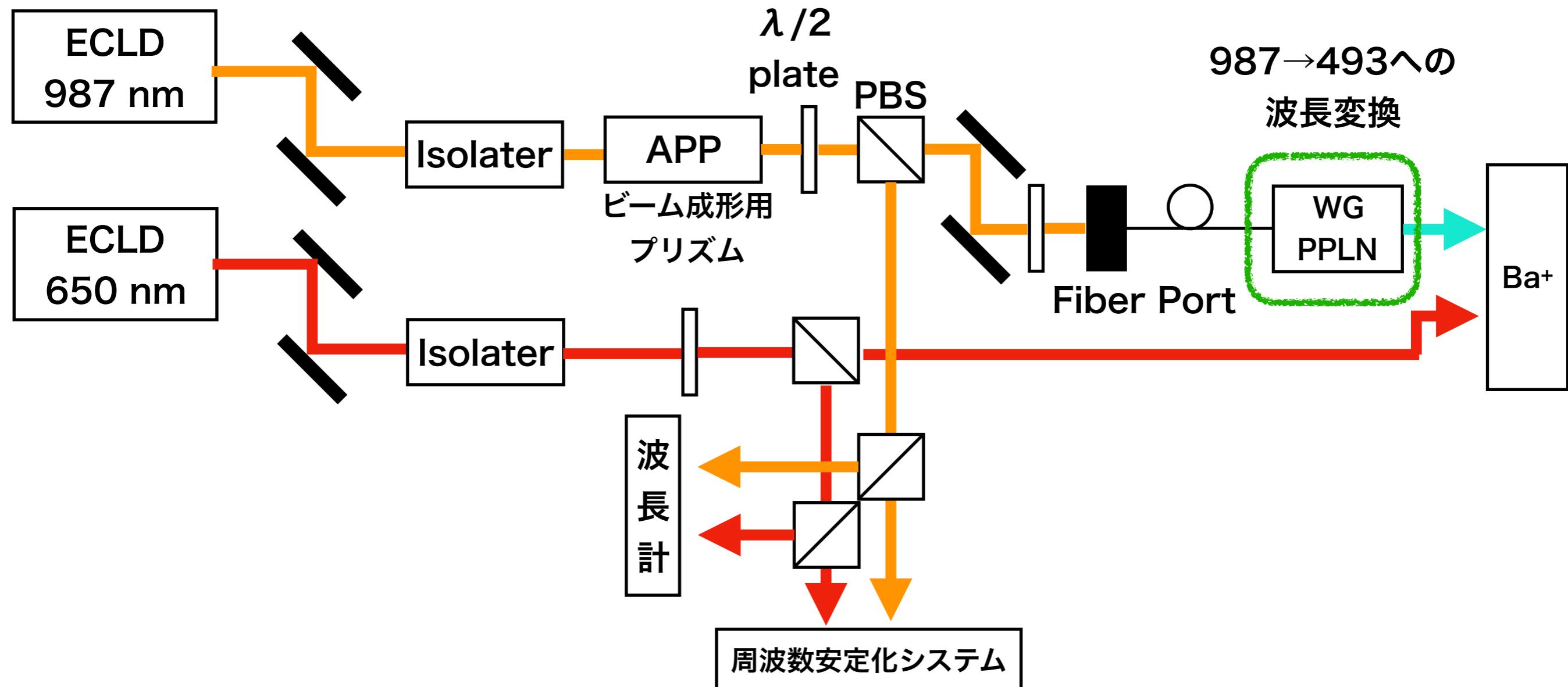
- 低エネルギーBaを用いた実験



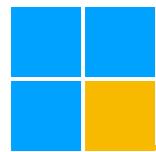
開発方針

- 493nmレーザー(10mW)
→ 987nmから倍波をとって生成
- 650nmレーザー
- Baイオン源 イオン電流：1 μA エミッタنس：1mm mrad

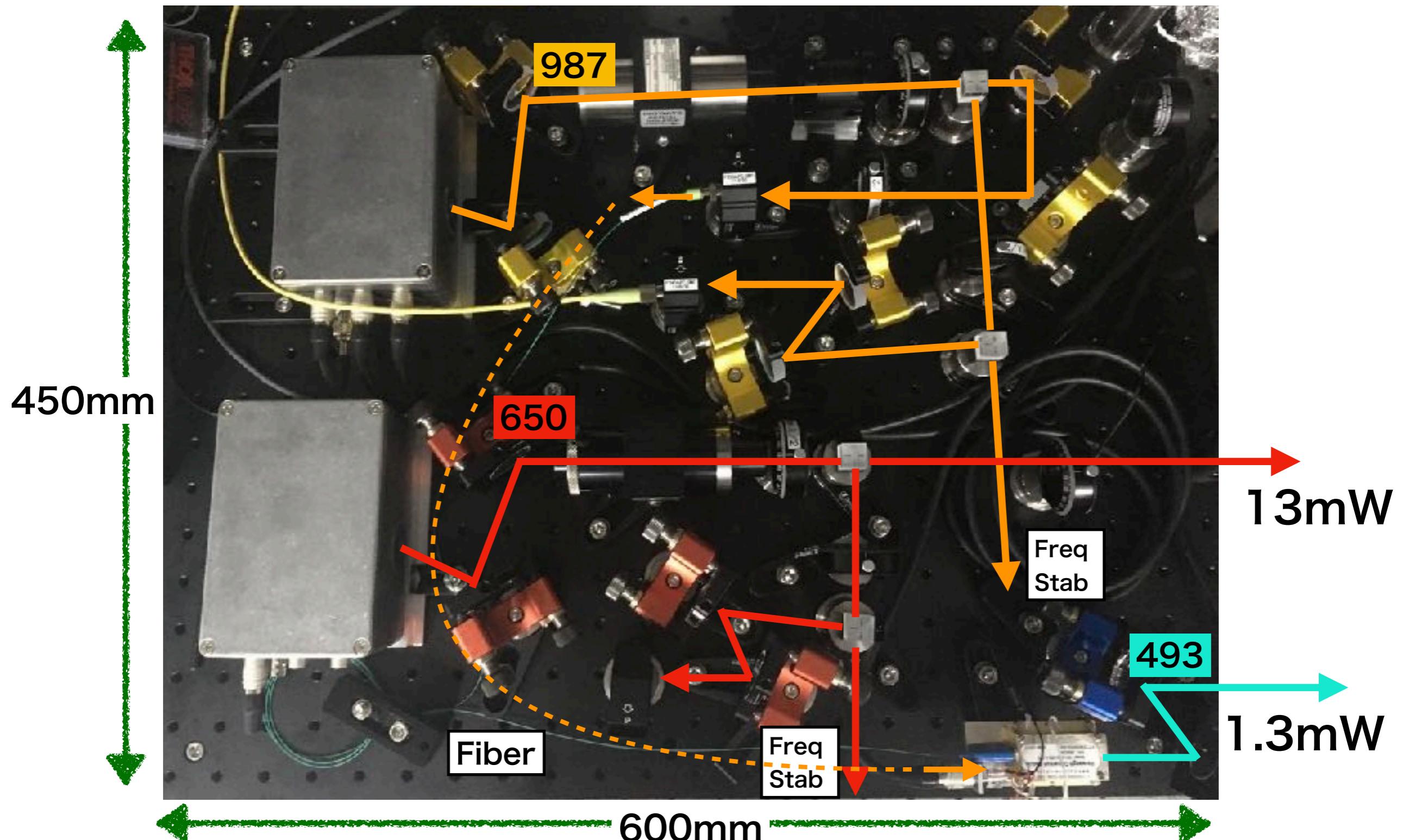
信号観測レート：8.8×10⁵Hz



- 493nmのレーザーは987nmのECLDの倍波をとる
- 将来的に周波数安定化システムを入れるためにPBSでパスを作つておく



実際のレーザーシステム



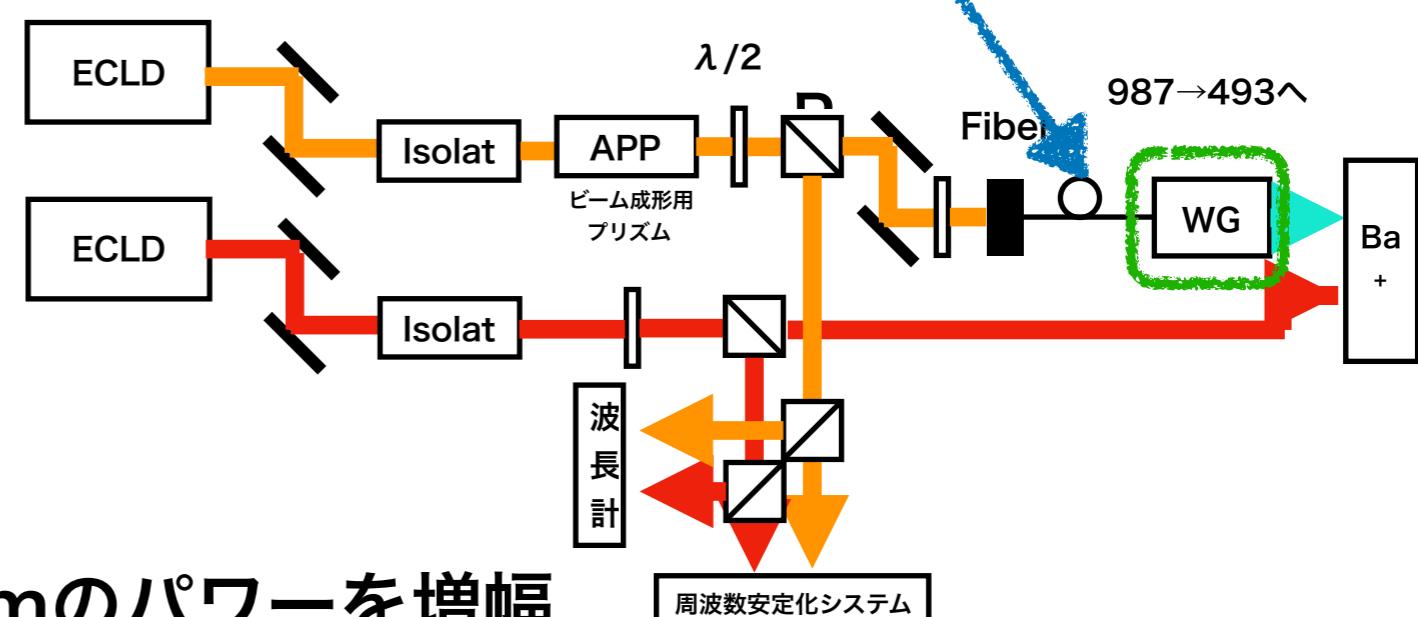
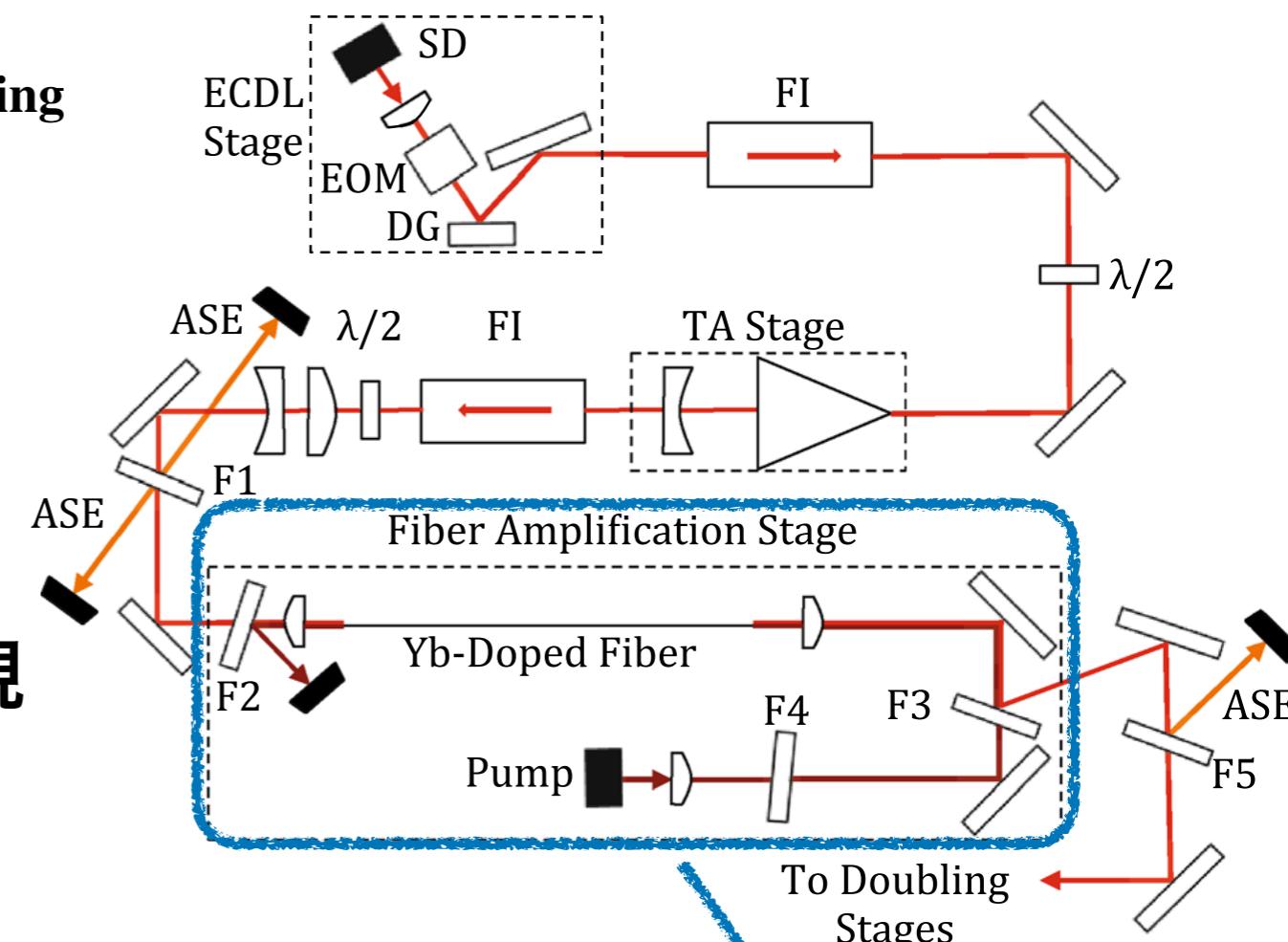
- ・周波数安定化システムはまだ先
- ・493nmのレーザーパワーがもう少し欲しい(10mW)

ファイバーアンプ

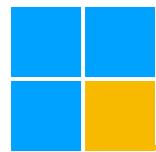
Yb fiber amplifier at 972.5 nm with frequency quadrupling
to 243.1 nm

Z. Burkley¹ · C. Raso¹  · S. F. Cooper¹ · A. D. Brandt¹ · D. C. Yost¹

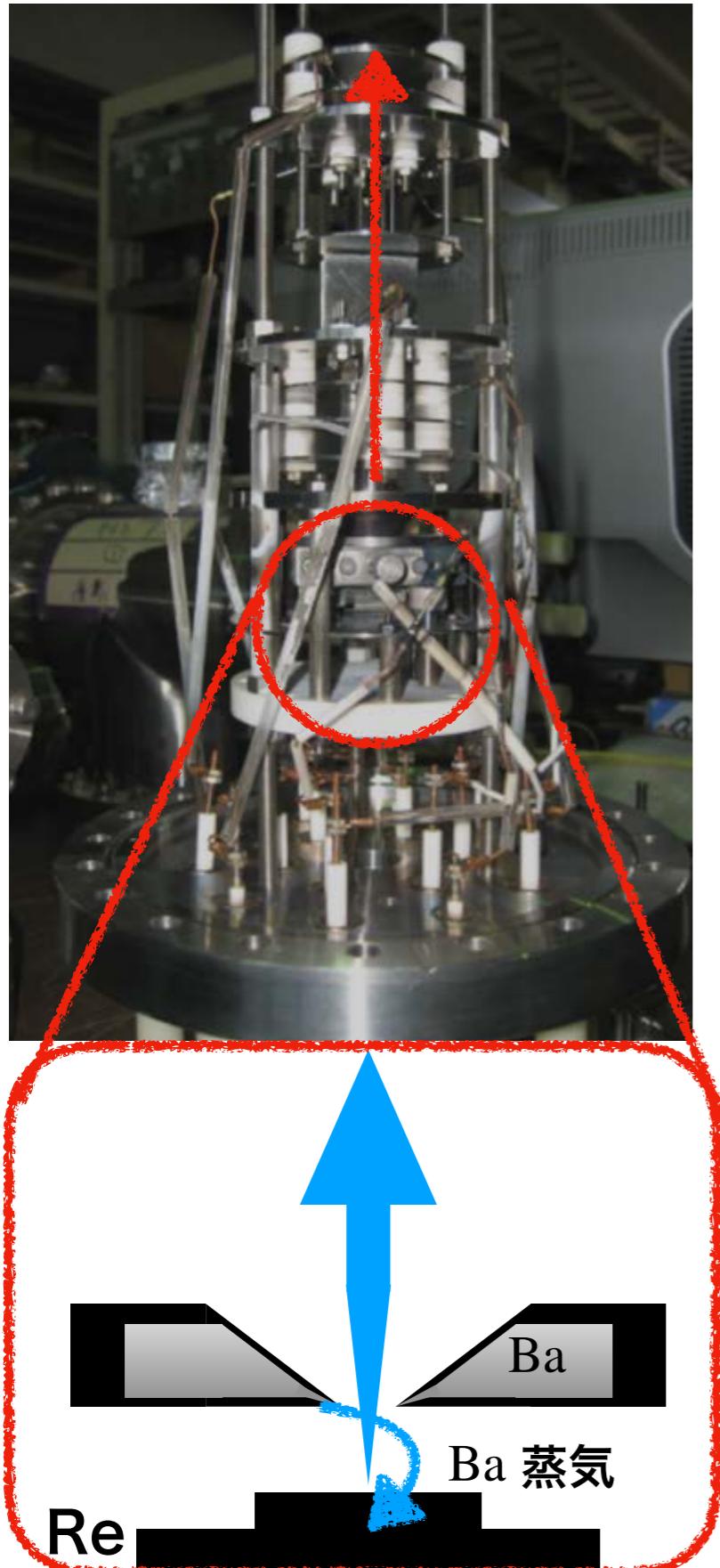
Ybドープファイバーを用いたアンプ
先行研究では100倍程度の増幅を実現
10倍程度の増幅を目指し開発中
(4回生卒業研究)



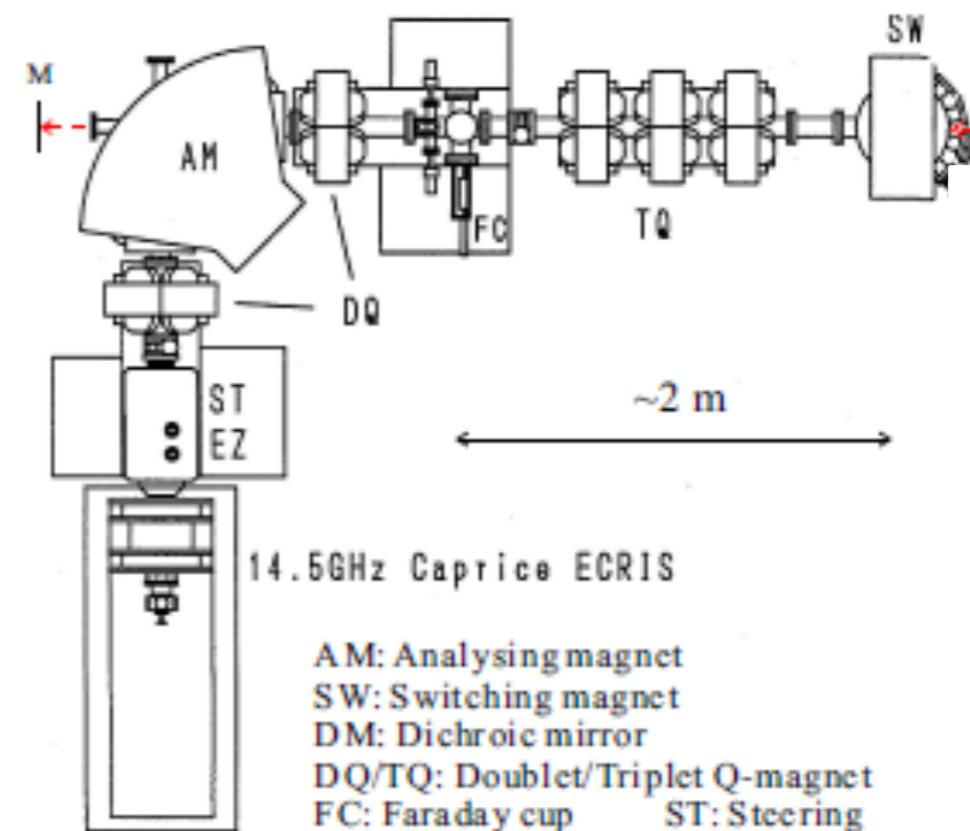
SHG前の987nmをアンプして493nmのパワーを増幅



Baイオン源の準備状況



前面供給表面電離型
立ち上げ実験（イオン電流のみ）
・数百nA程度
今後、既存のビームラインにつなげて、
エミッタンスマーターと
レーザー励起による蛍光で、ビーム性能を評価



Re表面付近でBaを電離させて、ビームとして引き出す

Signal観測レート

イオンビーム

イオン	Ba ⁺	
運動エネルギー	10keV	今後実験により測定
エネルギー広がり	10 ⁻⁴	
エミッタنس	1mm mrad	
励起点ビームサイズ（水平、垂直）	0.1~1mm、1~20mm	
曲率半径	0.4m	

イオン準位

寿命	10.5ns
A係数	9.53×10 ⁻⁷ s ⁻¹

レーザー

波長	493nm
パワー	10mW
サイズ	1mm

Signal = (1イオン辺りのシグナル) × (イオンフラックス) × (量子効率 × 立体角)
イオン電流 100nA

$$= \underline{0.0037} \times \underline{0.6} \times \underline{10^{12}} \times \underline{4} \times \underline{10^{-5}}$$

$$= 8.8 \times 10^4 \text{Hz}$$

まとめ

- ・我々のグループでは、重イオンとレーザーを用いた高強度ガンマ線源のための基礎研究を行なっている
- ・提案中のものは従来のLCS γ 線源と比べて、物理過程の断面積が大きく、高強度化が期待できる
 - ・現在は低エネルギーBaを用いた原理実証実験の準備をしている
- ・現在の準備状況

レーザー

基本的なパスが完成したが、レーザーパワーが足りていないので
ファイバーアンプの導入を検討中 ($1.3\text{mW} \rightarrow 10\text{mW}$)

イオン源

数百nA程度の出力のイオン源の立ち上げ中
今後、エミッタンス測定により、ビーム性能を評価

信号観測レート： $8.8 \times 10^4\text{Hz}$



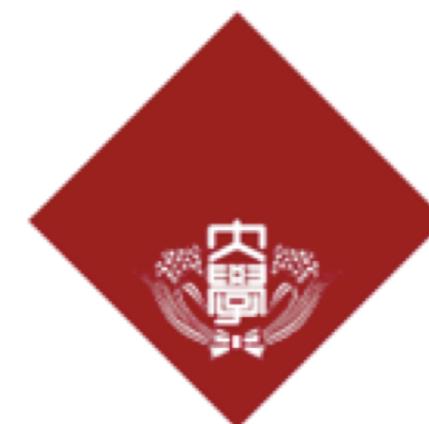
笠尾 登, 吉村 太彦, 吉村 浩司, 吉見 彰洋,
植竹 智, 宮本 祐樹, 増田 孝彦, 原 秀明,
平木 貴宏, 今村 慧, 今井 康貴



上垣外 修一, 中川 孝秀, 金井 保之,
市川 雄一, 長友 桀



本田 洋介



坂上 和之

Back up

イオン源の検討

	simulation	Ion Source(ECR)	Ion Source(thermal)
ビーム電流	$1 \mu\text{A}$	$1 \mu\text{A}$	10nA
規格化エミッタنس	1 mm mrad	1.0 mm mrad	$5.5 \text{ mm } \mu\text{rad}$
エミッタنس(10keV)		2.5 mm mrad	$14.1 \text{ mm } \mu\text{rad}$
エネルギー幅	10^{-4}	1.5×10^{-3}	1.1×10^{-5}
輝度[A/(mm mrad) ²]		1.0×10^{-4}	4.6

Thermal Ion Sourceの方がエミッタنسがよく、最終的なビーム強度は
Thermal Ion Sourceの方が良い
ECRの方で46mAが出れば、Thermal Ion Sourceに匹敵するが、難しい（らしい）

QIBの見積もり

• Super-KEK-B ring

- $\gamma=250$
(requires super-conducting magnets)
 - $\rho=210\text{m}$ $B=8.5\text{T}$
- $N_i=10^9$ ions/bunch
- Energy spread (dE/E)= 0.5×10^{-3}

• H-like ion

- $Z=22$ Ti H-Like
- $E_{eg}=5\text{ keV}$



「相対論的イオンビームによる高強度 γ 線源」
本田、第14回日本加速器学会プロシーディング
'Intense gamma radiation by accelerated quantum ions'
笠尾、18th Lomonosov

E.G.Bessonov and K.-J.KIM, PRL 76 431 (1996.)

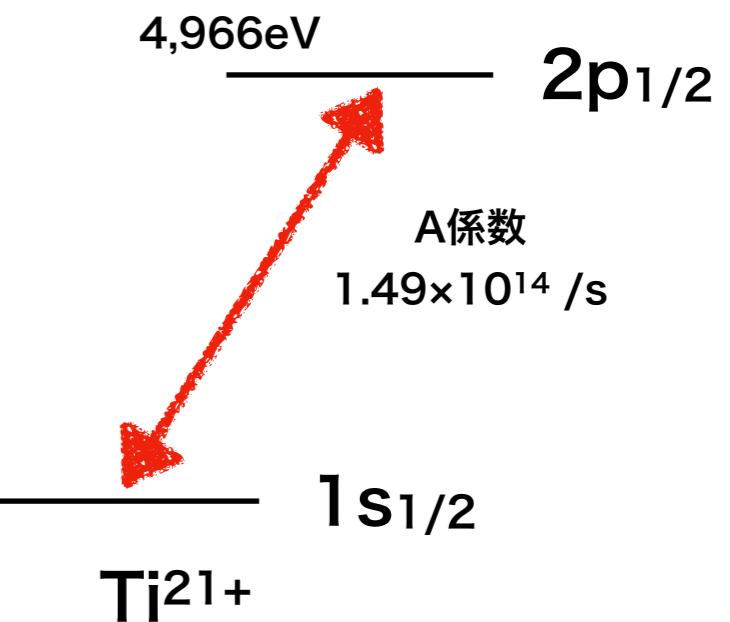
"Radiative Cooling of Ion Beams in Storage Rings by Broad-Band Lasers"

• Light source(FEL)

- $E=10\text{eV}$
- $I/I_s=5 \times 10^{-4}$
- $\langle P_L \rangle = 12\text{kW}$

• Gamma rays

- $E_g= 2.5\text{ MeV}$
- Flux 10^{17} Hz



1イオンが励起光と1回交差した時の放射個数

$$\Delta N^s = 2(1 + \beta_z) \frac{\bar{\sigma}}{1 + D} \frac{I}{\hbar\omega_L} \frac{\sigma_L}{c} \sim 1$$

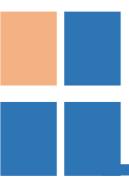
D:Saturation Parameter,

σ : Laser線幅込みの実効的な断面積

σ_L/c :相互作用長（時間）

$I/\hbar\omega$: Laser Flux

1 bunchが30MHzだとすると
 3×10^{16} photon/sの γ 線が得られる



これまでの研究

理論

(1) E.G. Bessonov and K.J. Kim, Phys. Rev. Lett 76(1996) 431

→ レーザーを用いたイオン冷却

(2) E.G. Bessonov, Nucl. Instr. Meth. B309 (2013) 92

(3) M.W. Krasny, arXiv:1511.07794v1 [hep-ex] 24 Nov 2015

→ Gamma Factory計画(QIBと同種原理を用いた計画)

実験

PSI(Partially-Stripped Ion)を加速し、
レーザー励起させた例はない

昨年の秋頃

Gamma Factory(CERN)

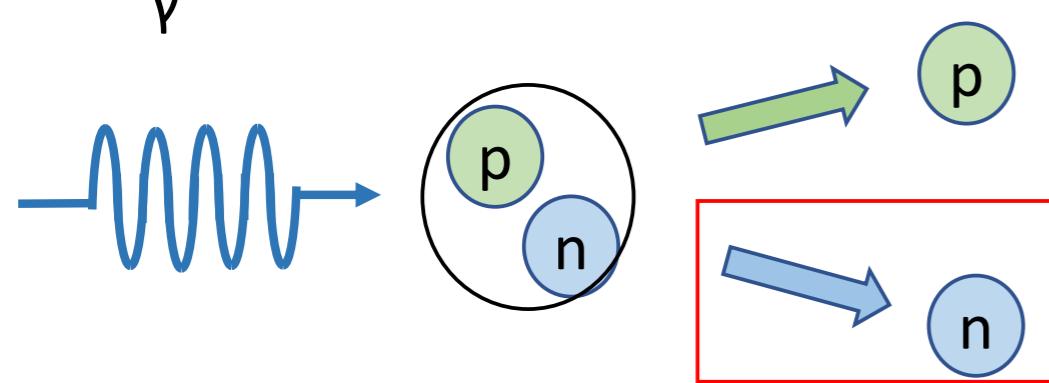
SPSにおいて Xe^{39+} (Z=54)ビームの蓄積の成功



High Flux γ 線の応用例

• Ultra cold neutronの生成

T. Masuda, A. Yoshimi, M. Yoshimura,
Int. J. Mod. Phys. E 26, No.11, 1750076 (2017)



$\sim 2.2\text{MeV}$, $10^{17}/\text{sec}$ で
 10^5 個/sec程度

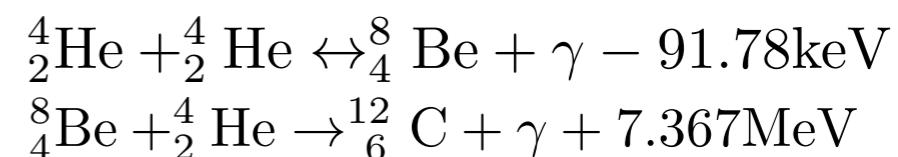
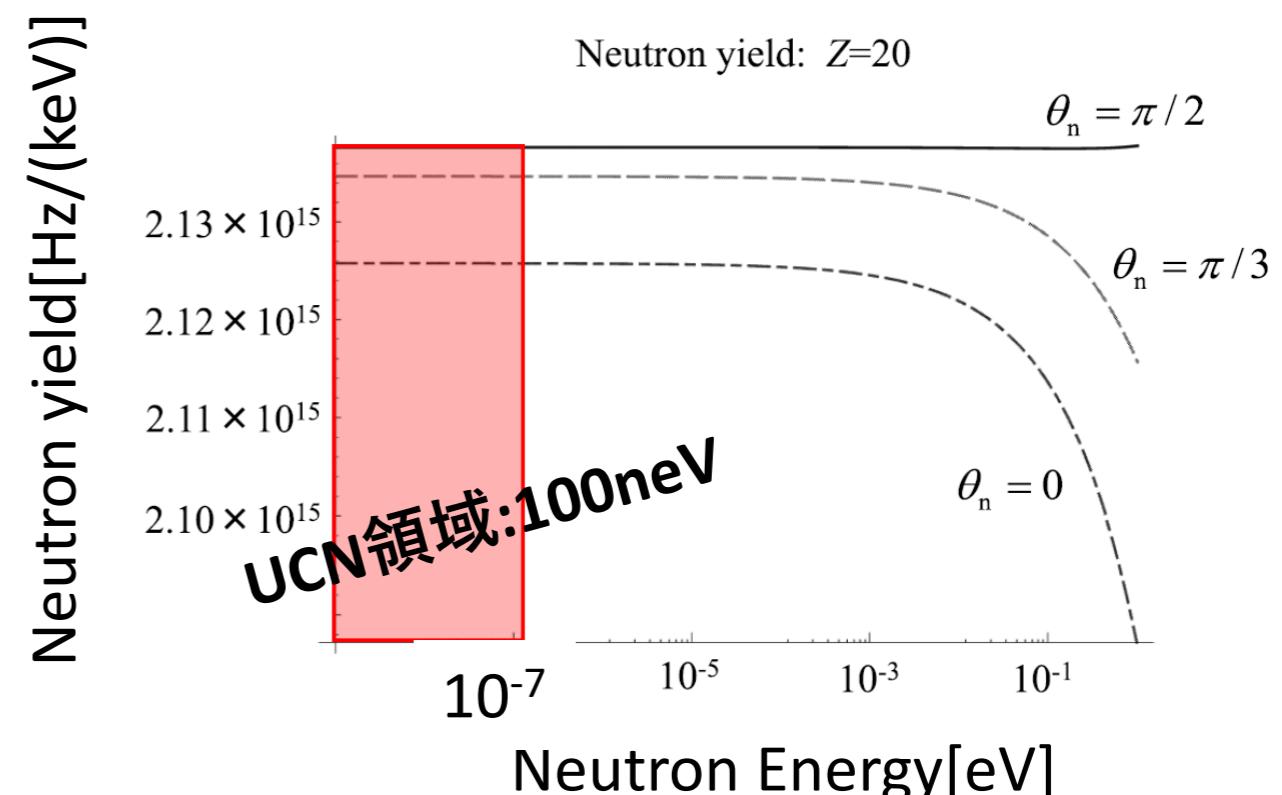
Paul Scherrer Institute(PSI)では 3×10^4 個/sec
(G. Bison et al., Phys. Rev. C95, 045503 (2017).)

• Nuclear Astrophysics

${}^4\text{He}(2\alpha, \gamma){}^{12}\text{C}$ の反応率を逆反応を γ 線を用いて実験的に測定

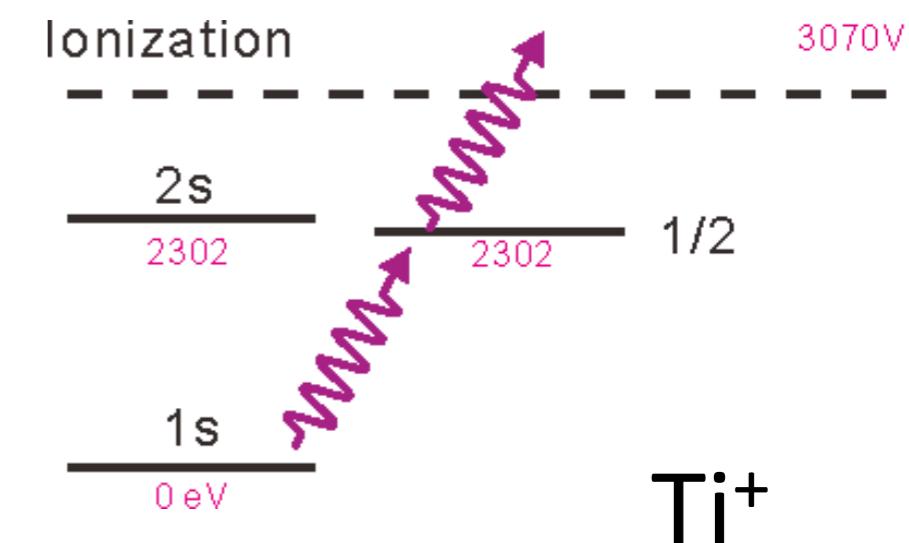
星の進化を記述する上で重要なパラメーター

$\sim 8\text{MeV}$, $10^{17}/\text{sec}$



問題点

- ・ 残留ガスとの衝突
- ・ 2光子吸収によるイオン化
- ・ バンチ内の散乱

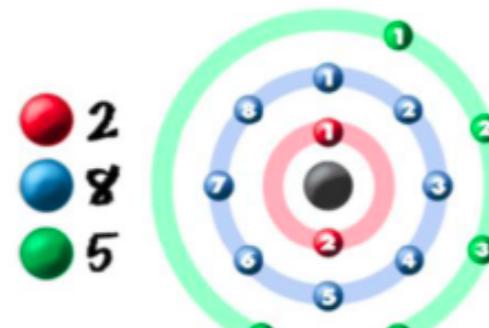


いざれもイオンの価数を
変えてビームをロスさせる

- ・ 磁場によるStark効果

イオンビームの蓄積(CERNでの先行研究)

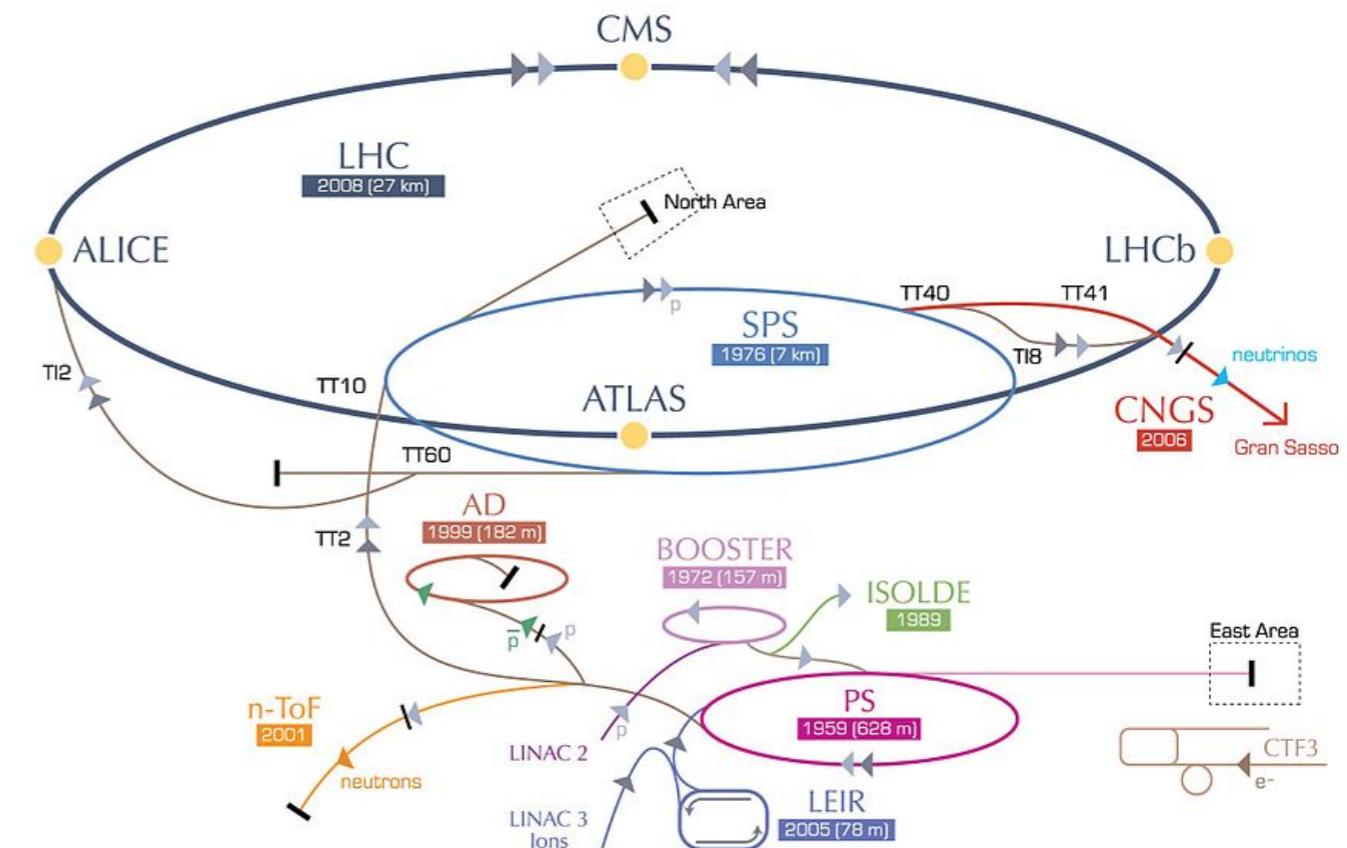
+39 Xe P-like Xenon



Xe39+ lifetime MD in the SPS

- 14-15 Sep. 2017:
 - first SPS MDION cycle setup
 - Lifetime at injection (23.6 GeV/Z)
 - Effect of 200MHz RF ON/OFF
- 13/19-20 Oct. 2017:
 - Lifetime at injection (23.6 GeV/Z) and flat top (270 GeV/Z)
 - Effect of 200MHz RF ON/OFF
- 08 Nov. 2017:
 - Lifetime at injection (23.6 GeV/Z) and flat top (189 GeV/Z)

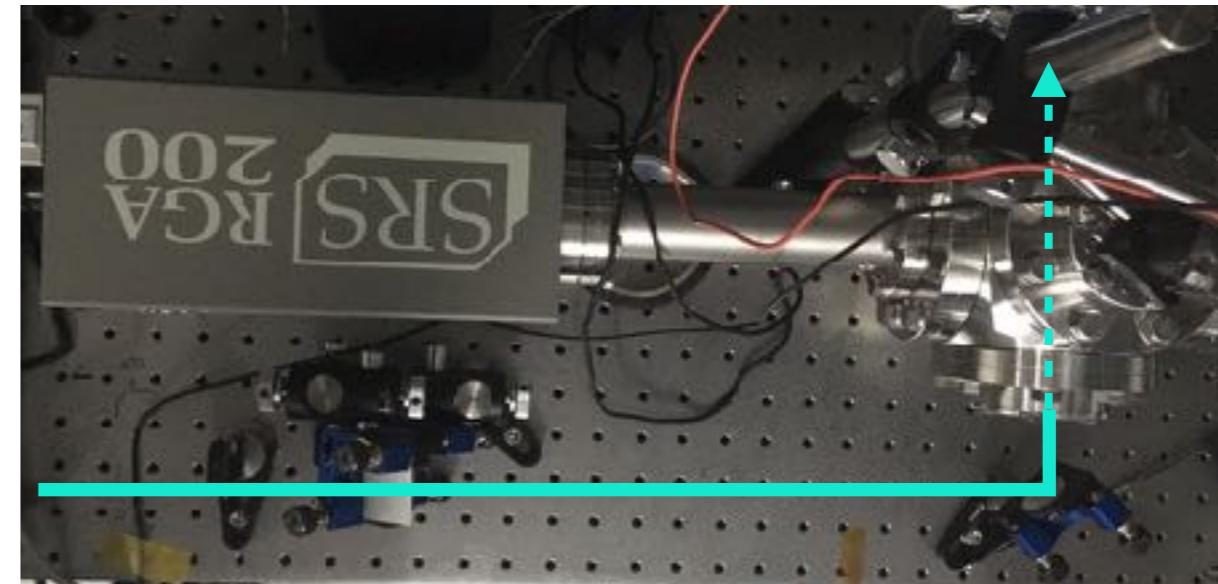
CERN's accelerator complex



SPSでのXeイオンの蓄積・ビーム寿命の測定 (2017)

1714ms程度の寿命

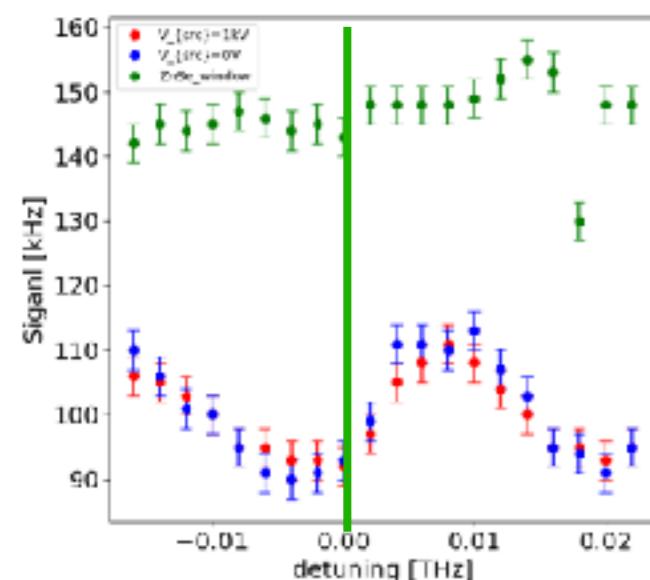
今年はH-like Pbイオンを用いて実験？



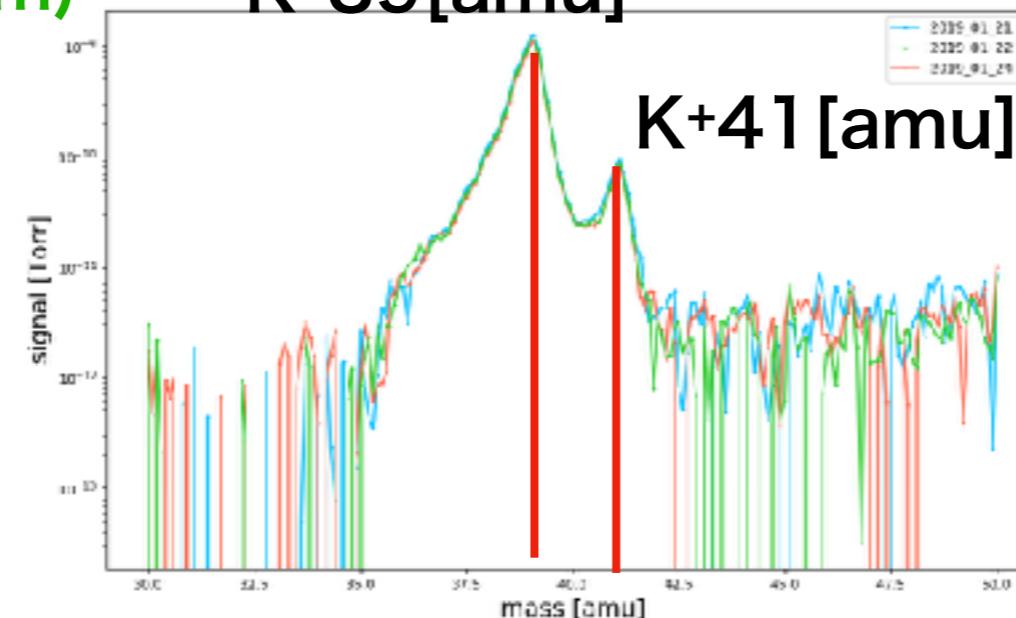
フィラメント熱放出型

J. P. Blewett and E. J. Jones, Phys. Rev. 50, 464(1936).

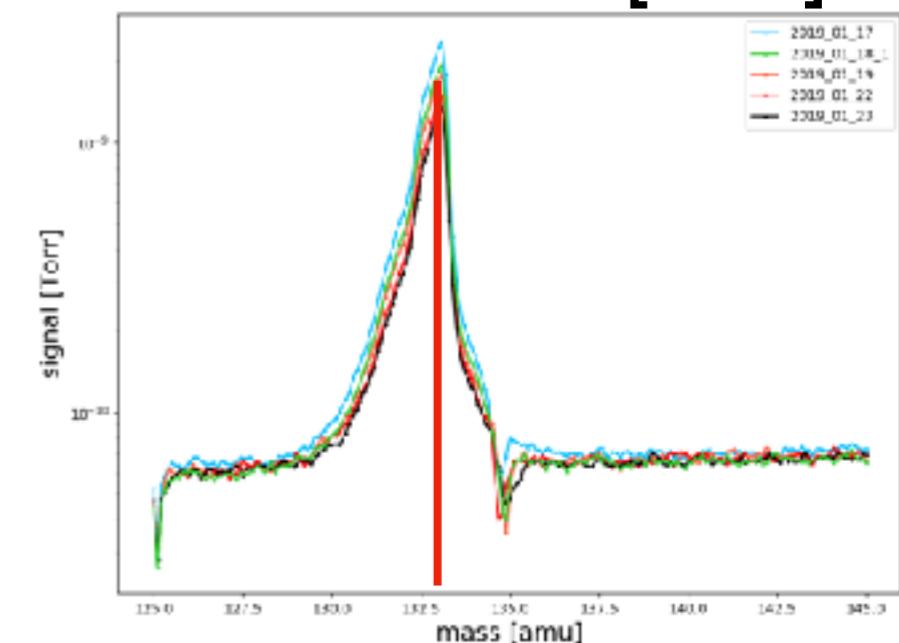
共鳴波長(493.54nm)



K⁺39[amu]

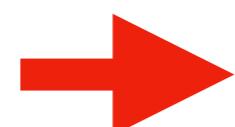


Cs⁺133[amu]



イオン電流：数nA

イオン組成：K⁺、Cs⁺



過去に使用実績のあるBaイオン源に変更

Yb準位図

